



山本あけみ

市民政治レポート

「緑ゆたかな環境をこどもたちへ」

【巻頭OPINION】	1
【第3定例会 一般質問報告】	2
【第4定例会 一般質問報告】	3
【学校の跡地活用について】	4
【Activity report】	4
【木曜茶話会のお知らせ】	4

【巻頭 OPINION】

2020年東京オリ・パラ開催の年がスタート!

いよいよオリンピック・パラリンピック開催の年となり、準備も着々と進みつつあります。世界各国から東京へと人々がやって来ますが、その幸福感とはどういったものでしょうか。哲学的でもあるこのテーマには世界各国や国内においても、尺度の違いこそあるものの大規模な調査が行われています。

その一つ、国連の関連団体が毎年発表している「世界幸福度レポート」は、「どれくらい幸せと感じているか」を評価した調査に加え、GDP、平均余命、寛大さ、社会的支援、自由度、腐敗度といった要素を元に、幸福度を計っています。日本は「人生選択の自由さ」や「寛容度」が低く幸福度を押し下げ年々順位を下げており、大変残念な事に昨年は58位と先進国で最低レベルとなりました。

立憲民主党杉並区議団では多様な個性や価値観が認められ、基本的人権が尊重される「共に生きる社会」を実現して行く為、ボトムアップの政治を目指し、杉並区への提言活動を続けています。生活に最も身近な基礎自治体として、そこに暮らす区民が幸福と感ずることが出来るよう、本年も尽力して参ります。



【第3定例会 決算特別委員会報告】

動画⇒杉並区議会⇒委員会録画中継⇒10/2,3,4

平成30年度の決算を審議する決算特別委員会が行われ、新人議員を含め全議員が委員となり、質疑を通して区の考えを確認し、今後に向けての提言をしました。以下、抜粋をご報告致します。

公共施設・公有施設の改築改修が進んでいます！

全国の自治体が抱える共通課題である、今後次々と更新時期を迎える公共施設の改築改修は、財政運営上も大きく影響を及ぼします。品質維持と向上、コスト意識を常に持ち、また、財政負担軽減・平準化も考慮しながら、計画的に取り組む必要があります。

どの施設をどうやって何に作り替えをして行くのか、一つ一つの施設整備の動きを注視し、また、基金と区債のバランスを見ていく事は、財政運営を評価する上で重要ですが、過去の実績と単年度収支だけでは将来負担までは見えません。

現状では、公共公有施設の延べ床面積が肥大化し、将来にわたって管理すべき施設が増えており、財政を圧迫して行かないか危惧しています。

特に、大規模敷地である学校跡地活用や杉並区役所本庁舎の建て替えは、様々な方法があり熟慮が必要です。広く区民と情報を共有しご理解を得ながら、プロセスを大切に進めていく必要があります。

また、本決算では扶助費の増大を実感いたしました。バランスが大切とは思いますが、施設整備費のスリム化を図り、今後の教育や福祉分野の充実を図って頂きたいと考えます。

※扶助費：社会保障制度の一環として、児童・高齢者・障害者・生活困窮者などに対して国や地方公共団体が行う支援に要する経費。生活保護費・保育園経費・児童手当など。



写真：改築中の杉並区立中央図書館

区民の声

区民の声を聴き、それに立脚した区政となっているかは重要です。

当区では区民の偏りの無い意見を集約していく方法として区民意向調査を行い、無作為抽出で1400名に郵送し調査結果を得ています。今後はこれを発展させ、同じメンバーによる政策の議論の場を作り区政に活かす取り組みが必要です。この手法は、「住民協議会」として、複数の自治体が既に実施し成果を得ています。

当区議団では昨年試行し、子育てに関してテーマを絞り、2回にわたって熟議の場を作りました。アンケートに答えるだけではわからない区民の生の声が聴けたことは大きく、議員が主体という制約がありながらも、大きな成果がありました。



写真：昨年開催した住民協議会の様子

当区でも区民意向調査などの実績を踏まえた「住民協議会」の設置を強く求めました。

区民の声

子育て応援券を産後の大変な時期に利用しやすくするため、スマートフォンのアプリ化などを要望。産後うつ予防や、孤立化が児童虐待に繋がってしまうような状況を改善できる様、更なる区の実施を要望しました。



イメージ写真

士業の連携



イメージ写真

現在、区民からの各種相談を士業の方々がそれぞれ別の窓口となって区民相談をしています。相談が多岐の分野にまたがる事も多いのが実情です。

港区では、10士業の連携による「港区くらしと事業の無料相談会」が開催されました。

東京都不動産鑑定士協会等主催の法律相談会に、弁護士・税理士・不動産鑑定士・司法書士・行政書士・建築士・土地家屋調査士・社会保険労務士・公認会計士・弁理士の10の専門家、総勢60数名が参加。くらしや事業に関する問題を抱える相談者に対し、異なる業種の専門家3名ほどがチームを組んで相談に応じ、相談者にとって貴重な機会となったと考え、当区でも同様の取組を行う様、要望しました。

その他

地区計画活用等による、まちづくりを俯瞰した公共施設改築 / 公共建築物改修・改築のトータルコスト把握 / 公共施設の品質確保 / 放課後等デイサービス利用拡大 / 災害時にも活用できるエネルギーステーション / 災害時の円滑な廃棄物処理などを提言。



テーマ「障害者・障害児について」 ※全文は山本あけみブログ 2019-11-23 に掲載。

立憲民主党杉並区議団は多様な個性や価値観が認められ、基本的人権が尊重される「共に生きる社会」を実現する為の活動を続けています。

障害者・障害児施策については福祉分野の関係者だけではなく、広く皆が同じ思いを共有する必要があります。例えば、今後ますますインクルーシブ教育の実践の場となる学校建築を含めて、区立施設再編をハード部分の再整備のみで考える事無く、これから共生社会を作っていくためには「ではどういった施設づくりが必要なのか」、といった新たな視点での議論が始まる事を大いに期待し、質疑を通して力強い取り組みを要望しました。

以下、質疑の一部をご紹介します。

Q 区は昨年3月に「第5期杉並区障害福祉計画」と「第1期杉並区障害児福祉計画」を一体的に策定。国が示した基本指針とそれに対する区の成果目標の概要、また本年は、本計画の真ん中の年に当たるが、これまでの進捗状況と達成までの課題、達成に向けてどのように進めていくのか。

A 国の基本指針では福祉施設から一般就労への移行など、5つの分野について、区に成果目標の設定を求めており、これまでの実績と現状を踏まえ基本指針を上回る目標を設定。昨年度末実績では、定量的な目標は若干目標値を下回っているものが一部にあるが、おおむね目標を達成。定性的な目標に関しても着実に取り組んでいる。

課題はどの分野にも共通し、障害者が地域生活を送る上で必要な支援を受けられるための相談の充実。さらに重度化、高齢化した障害者へのサービスを担う人材確保も課題。民間事業者とも連携し、相談支援体制の充実と人材確保策の検討を進め目標の達成に努めていく。

Q 当区では次世代育成基金を活用した事業を行っているが障害児が参加しづらい現状がある。例えば当区の保養施設である「コニファーいわびつ」の充実した施設を利用し、パラリンピックスポーツなどを楽しみながら交流が出来、大自然の中で親元を離れて過ごす宿泊型のバスツアーを計画したり、全国各地で取り組みが進む、発達障害や自閉症の子どもたちと馬との触れ合いを通じて社会生活能力を育成するとされているホースセラピーを体験するなど、様々な企画が考えられるが、これからの共生社会実現のため、次世代育成基金事業などを活用し、障害のある無しに関わらず多くの子どもたちが参加できる、福祉的視点を入れた事業の取り組みを要望するがいかがか。

A ご指摘の通り、こうした事業実施は共生社会の実現に向けて大変重要。今後、関係課と連携しつつ、同様の取り組み実績のある団体等へ、区の次世代育成基金を活用した民間助成事業に提案して頂くように働きかけるなど取り組んでいく。



Q 今後は特に障害児、障害者の社会参加、差別解消、権利擁護が重要であり、担当課のみならず、多方面の取組を進めることが必要。区が共生社会の実現を先頭に立って進める事で、障害がある無しに関わらず住みやすい地域となっていくよう、今後とも力強い取組を要望するがいかがか。

A (区長答弁)
私は、すべての人々が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、地域で共生する社会の実現を目指している。そのためには、広く区民に対して障害理解の促進や差別解消に向けた普及啓発、バリアフリー化やユニバーサルデザインによる施設の整備など、多方面の取組を進めていく必要があると考えている。

本日議員から頂いた障害者の社会参加や就労、住まいや遊び場などに関するご意見も踏まえ、引き続き障害者施策の推進に、福祉部門のみならず、全庁的に力強く取り組んでいきたい。



※その他にも、放課後等デイサービスの利用拡大/民間事業者と連携した障害者の就労支援/精神障害者への障害年金制度周知/共生社会実現の為の公共施設づくり/3障害の福祉手当の同額支給/精神障害者へのアウトリーチによる支援/住まいの確保/障害児も共に遊べる公園遊具の設置などを提言。

学校の跡地活用について

杉並区立施設再編計画に基づき、公共・公有施設の改修・改築が進んでいます。その中でも小中学校の統廃合により、今後は跡地活用の議論が本格化して来ます。当区ではサウンディング型の調査を進めています。その現状を確認しながら、特に未だ用途が決定していない富士見丘小学校に関して、区内建築士による自由闊達な活用方法の提言を通して、地域住民の理解促進を図って参ります。今春、シンポジウムや展覧会実施を予定しております。皆様からのご意見をお待ちしております。

※サウンディング型市場調査：
区有地などの有効活用に向けた検討で活用方法について民間事業者から広く意見、提案を求め、「対話」を通じて市場性等を把握する調査。

写真：イメージ



【Activity Report】

文教委員会行政視察

広島県広島市「市立中央図書館におけるレファレンス機能充実の取組について」

レファレンスサービスとは、利用者が司書に相談する事で、問題解決の鍵をつかみ、必要な情報や資料を効率よく探す事が出来るもので、評価の高い図書館ほど、サービスに力を入れているとされています。

杉並区では中央図書館の改修が進みハードだけでなく、ソフトの重要なかなめであるレファレンスサービスの充実が求められ、広島市の取組は全国でも手厚いことから視察先として決定しました。今後取り組みを求めて参ります。



愛知県岡崎市「岡崎市プログラミング学習について」

昨年度から独自のカリキュラム「岡崎市プログラミング学習」を市内全小学校で実施し、6年間で8教科24単元の体系的なプログラミング学習に取り組むことにより、全ての子どもたちにコンピュータを活用するための論理的思考力や情報活用能力を育成するとしています。学習指導

案や教材プログラムなどのきめ細かな手立てを講じ、市内の全ての教員が見通しをもって指導できる体制を整えており、大変参考になりました。

今年度からはプログラミング教育が小学校で必修化されますが、自治体の取組により充実度に違いが生じない様、杉並区でも同様の取組を求めて参ります。

写真：文教委員会行政視察の様子、中央山本あけみ

山本あけみプロフィール

東京都生まれ。杉並区久我山在住

インテリアコーディネーター/建築士/福祉住環境コーディネーター。

武蔵野女子大学/武蔵野美術大学(通信課程)卒業。

4人家族。20年間住宅の内装設計に携わる。

2011年初当選、2019年再選。都市環境委員長。

文教委員会委員長等歴任。立憲民主党杉並区議団副幹事長

お問い合わせ・連絡先

メールまたはファックスでお願います。頂いたお問い合わせには必ずお返事を申し上げますが、場合によってはお返事をいただく事があります。
【連絡先・杉並区役所】杉並区岡位ヶ谷 1-15-1(代 03-3312-2111)

メールアドレス yamamoto.akemi1965@gmail.com
ファックス 03-6231-5839

※公務活動費は基準に則って使用し、領収証を添付の上報告をしています。

公開していますので、区議会事務局にお問い合わせください。(03-3312-2111(代表))

※郵送不用の場合には山本事務所までご連絡をいただければ幸いです。

※これまで発行の区政報告をご希望の方は上記までご連絡ください。
いただいた個人情報は山本あけみの活動以外には使用いたしません。



発行責任者
山本あけみ

木曜茶話会 区民意見交換会 のお知らせ

毎月第4木曜に、「木曜茶話会・区民意見交換会」を日頃の疑問や質問、また貴重なご提案など、自由な意見交換の場として開催し、今年で9年目を迎えました。

- 参加費：無料 ●予約：不要
- 会場アクロス 15:00～17:00
京王井の頭線 久我山駅 改札前

66 1/23(木) 「世界幸福度 レポートについて」

日本では人々が長生きできても、自由や寛容さで劣るため低位にとどまっていますが、その原因は何かを探ります。

67 2/27(木) 「都市計画 高井戸公園について」

杉並区久我山で整備が進む公園について、現状と今後の動き、課題などをお話します。

68 3/26(木) 「令和2年度 予算編成について」

来年度予算に盛り込まれた新規事業や、これまで提言を続けてきた政策についてお話しします。

山本あけみがこれまでの活動を通して提言してきた内容をご紹介します。前半はテーマに沿って、後半は自由な意見交換の場として、参加者からのご意見を伺いたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。